

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2373900345
法人名	有限会社 ジェイ・スパック
事業所名	グループホーム「白寿の里」
訪問調査日	平成 20 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 14 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2373900345
法人名	有限会社 ジェイ・スパック
事業所名	グループホーム「白寿の里」
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15 (電話)0587-33-5377

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣 N203		
訪問調査日	平成20年8月27日	評価確定日	平成20年9月14日

【情報提供票より】(20年8月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤	8 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物構造	木造ツーバイ方式 造り 二階建て		
	2階	階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱費2万、管理費2万円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有・3年償却	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	16 名	男性	7 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神谷医院、稲沢市民病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛知県稲沢市の歴史ある国府宮神社の南側、名鉄国府宮駅から徒歩5分ほど、幹線道路より奥に入った閑静な住宅地に古民家風の2階建てホームがある。近隣には、稲沢市民病院もある。ホーム前のエントランスには、駐車スペースがあり、格子戸の玄関横には、花や植木を飾り、向かい合っのベンチを置き、くつろげる雰囲気がある。運営者、職員はアットホームな支援と自分も入居したくなる施設を介護目標とし、「誰もが白寿まで、気ままに暮らすこと」をホームの理想とし「白寿の里」と命名、若い管理者を中心に充実した介護に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 家族とのコミュニケーションの充実については、家族会の充実、家族の運営推進会議への出席、施設からの情報としての「白寿だより」の内容充実等に取り組んできており、かなりの改善は見られるが引き続きの継続課題として取り組み中である。災害時避難訓練等については、今年6月に消防署立会いでの避難訓練実施。問題点等も発見され、現在対応策検討中である。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は前回の評価結果を踏まえ、管理者が中心となって全体を見直し、職員、運営者等からも意見を聞き取りまとめを行っている。自己評価・外部評価を実施する意義等は理解されているが、評価結果の活用方法、それを基にしたの改善を具体的にどう進めていくか等の態勢作りを運営者・管理者で検討中である。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 最近の運営推進会議には、利用者家族、地域包括支援センター職員、民生委員、ホームからは運営者、管理者、職員が参加。ホームからは各月ごとの行事説明や利用者の状況、施設の介護目標などが説明がされている。外部出席者からは利用者の介護度、入院時の対応、問題行動への対応、非常災害時の準備などの質問が出ている。また、家族からはホーム行事への協力等の意見も出ている。ホームではこうした意見等を参考にして改善への取り組みが進められている。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族は、気楽にホームを訪問している。ホームでは、家族来訪時をとりえ要望や意見を聞くとともに、利用者の状況などを報告している。その他にも、家族会や運営推進会議等を通じ家族意見の吸収に努めるとともに、「白寿だより」を送付し、ホームからの情報伝達を行っている。また、個別の情報連絡等は、電話や請求書送付時にメモなどで連絡し、家族意見や要望の吸収に努めている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会には加入しているが、住所が学区の一番はずれであり、かつ複数学区との境界線地域のため、学区の行事等には参加する機会は少ない。しかし、散歩時の挨拶の励行や喫茶店でのおしゃべり、地域のごみ拾いへの参加等により、地域との交流を深めている。また、学区の中学校の体験学習や地域ボランティアの受け入れなどにも積極的に対応している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの人格、生きがいを大切にした「百人百介護」を理念とし、「アットホーム」な支援と職員自身が入居したくなるホームを介護目標に取り入れ、地域に溶け込んだ存在としての「白寿の里」をめざしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念はホーム内に掲示されていないが、介護目標はコピーされ、職員に配布、また申し送り時には復唱している。	○	理念を職員・利用者・家族・地域に広め、共有を図るためにもホーム内への掲示、「白寿たより」への掲載などを検討されたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元のはだか祭りの「年男」にホームに来てもらい交流をしたり、地元ボランティアグループによるレクレーション活動の開催、地元中学生の体験学習の受け入れ、地域のごみ拾いへの参加などにより地元との交流を図っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果は、職員会議等で取り上げ、管理者・職員等による検討がなされ改善等を目標としている。災害時対策としての避難訓練の実施・問題点の検討、家族の意見・要望等の吸収対応策など、具体的な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先月7月30日の会議では、利用者家族や地域包括支援センター、民生委員に行事や利用者状況の説明をして、具体的な要望などの質疑応答を記録、情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の方針もあり、市の福祉担当部門等との関りは、やや希薄であるが、窓口担当者で行き来する機会はある。地域包括支援センターとの連携は密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の「家族会」やホームが発行する「白寿たより」などにより、ホームの様子や行事、職員の異動など大きなニューを伝えている。個々人に関する情報(健康、暮らしぶり)、金銭管理などの情報は別途個別に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の状況を説明、家族からの要望、不満、苦情を聞き、申し送りノートに記入、職員に伝達、共有している。また、家族会の開催、運営推進会議への家族代表の参加なども行い、家族意見の吸収とその反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保ちながら、3か月に1度職員のフロアー異動を行っている。職員の異動時の引継ぎの確保も早急に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員等の育成計画を立て、積極的に資格取得や介護技術・ノウハウの向上などの研修が受講できるような体制整備も進めている。現在、ケアマネ2名、介護福祉士9名の資格取得者が在籍している。職員等は更なる資格取得等による介護知識や技術の習得を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1度、地域のグループホーム交流会に運営者や管理者などが参加している。法令改正や制度の見直しへの取り組みなどの情報交換を行い、それをサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学を家族、利用者にして頂き、施設での生活を知り、職員に馴染んで利用者が納得出来てからの入居をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対し常に人生の先輩という気持ちで接している。その上で、利用者の観察を行い、自立度の判断、五感機能のチェック、出来ること得意なことの把握をしながら、言葉かけを行い、日々の生活を共に築きあう事に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の能力を「生活記録ノート」記録し把握している。得意なこと出来ることは参加して頂き、職員は利用者の思いを大切に、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月2～3名、利用者についてのカンファレンスを行っている。職員会議での事例検討、家族の要望、生活記録の申し送りなどを取り入れ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的および利用者の状況変化に応じて、利用者・家族・担当職員等の意見を取り入れ見直しを行っている。見直された介護計画は、職員が把握、共有し、計画に即した支援が行えるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診には、看護師が付き添い、薬の管理、入院時のケアなど医療面を支えている。また、利用者の中には夫婦がおり、1Fと2Fに入居し、昼間行き来をし、職員や利用者は温かく見守っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには、毎月1回協力医の往診があり受診できる体制があるが、利用者、家族が希望の医療機関があるときは、受診出来るように対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、利用者、家族の希望を取り入れ、覚書を記入してもらうようにしている。容態急変の場合の緊急時対応を会議などで話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議、研修等を行い、利用者の尊厳の維持、プライバシーの尊重、個人情報の秘密厳守などを徹底している。ホームでの日常生活の場面でも、こうしたことに配慮した声かけや対応が実践されている。個人情報に関する書類等の取り扱いも慎重に行われ、秘密厳守の保管等がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活は、普通家庭の生活時間に準拠した対応がされている。職員シフトの関係で、少し決められた時間が優先してところもあるが、その他は一人ひとりの生活リズムに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は、配食会社より、取り寄せ、朝食は材料のみ宅配とし、調理、買い物時間を利用者の支援にまわしている。配膳、後片付けは利用者と一緒にやっている。利用者の4割強が男性であることもこうした対応要因のひとつとなっている。	○	ホーム行事のある日の食事や日曜のおやつは利用者と手作りをしている。こうしたことは利用者のリハビリ等にも役立つ面もあり、引き続き、利用者と一緒につくることを大切にすることを望む。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員シフトの関係で、原則1日おきの午後としているが、利用者の体調、希望に合わせて対応をしている。入浴を拒む場合は、声掛け、入浴方法を工夫している。また、入浴後は水虫など感染症対策として、イソジンスプレーでの消毒、薬の塗布を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物のたたみ、干したり、居室の収納、食器を拭いたりなど、役割分担し、最後にはお礼の言葉かけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な活動として、フロア別に全員参加の夕食、喫茶店に行く機会を設けている。季節、天候に合わせて、散歩を心がけ、近くの川浴いや国府宮神社に行っている。また、玄関先のベンチで夕涼みなどもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は2重扉で外側は施錠されていないが、内側のガラス戸は施錠、センサーが取り付けられている。1F・2Fの移動はエレベーターで自由に出入り自由になっている。エレベーターは、病院用の奥に広い構造になっており、ベッドのままでも利用可能である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6月に消防署の職員が来て、利用者も参加した避難訓練を行い、避難体制の確認をした。また災害時の1日半分の食糧備蓄をしている。	○	消防署の指摘があったように、2Fの利用者の避難が外階段使用となり危険を伴っている。今度の対応等の取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー摂取量や水分摂取を個別に記録し管理している。看護師が中心になり服薬管理にも注意している。便秘対策として乳酸飲料の取り入れや便秘薬の使用にも気を配っている。糖尿病の利用者に対するカロリー制限も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間を中心に、回りに各居室が並んでいる。達筆な利用者が書いた歌詞や、指体操の手書き、提灯、折り紙など賑やかに飾りつけをしている。居間には大きな丸い座卓があり、座布団をひいて座れたり、回りの長椅子に腰掛けたり、車椅子でくつろげたり思い思いに過ごせる空間がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室出入口には、利用者の笑顔の写真、氏名、花や折り紙が飾られ、居室も整頓され明るい印象である。大きな窓から中庭の畑に出してしまう利用者もいる為、施錠している居室もある。持ち寄りの家具も少なめであるが、その分、整理整頓しやすい。		